



2月3日は節分です。子どもたちの「鬼は外！ 福は内！」の元気な豆まきの声が聞こえてきます。子供たちの中にいるウイルスや細菌がすべて体の外に出て行きますように。そして成長と共に子どもたちが丈夫で健康な体になるように祈っています。

MR(麻しん・風しんの混合ワクチン) はお済ですか？

- 1回目 対象 生後12ヶ月から24ヶ月未満の間。
- 2回目 対象 小学校入学前、(年長の間) 1年間です。入学準備で忙しい時期ですが、他の予防接種も含めて受け忘れがないか母子手帳で確認しましょう。



溶連菌感染症

溶連菌(ようれんきん)感染症とは、溶血性連鎖球菌という細菌による感染症で、喉の痛みを伴う咽頭炎の2割程度がこの菌が原因といわれています。5~10歳くらいまでの子どもがかかりやすく、発熱で気付かれることが多く、咳やくしゃみなどでうつります。



症状 発熱、喉の痛み、咽頭炎、扁桃炎をおこします。熱は微熱のこともあります。発疹は細かく、体や顔、足先、手先などに出て、痒みを伴うことがあります。ときに腹痛や嘔吐、頭痛もみられます。舌の表面がプツプツと赤く隆起(イチゴ舌)したり、首のリンパ節が腫れることもあります。皮膚に感染するととびひになったり肛門皮膚炎の原因になったりします。

注意 一般には抗菌薬を服用し症状が消えて元気になっても最後まで飲みきることが大切です。途中でやめると再発したり急性腎炎などを起こすことがまれにあります。



スキンケア

入浴のポイント

毎日の入浴で体を清潔に保つことは大切ですが、洗浄力の強い石鹸やボディソープで洗うと、かえって肌を乾燥させます。洗浄力がゆるやかで刺激の弱い物を少量、よく泡立ててから使いましょう。肌が乾燥気味の際は、タオルを使わず、手を優しく洗う程度で十分です。また、保湿成分を含む入浴剤を使用するのも効果的です。かゆみが強いときは、ぬるめの湯温で入浴しましょう。



乾燥対策のポイント

湿度が50%以下になると皮膚の乾燥が始まると言われています。加湿器の使用や洗濯物の部屋干などで室内の湿度調節を行い、衣類は通気性のよい物を選びましょう。特に乳児は、冬場だけではなく一年を通したスキンケアが欠かせません。医師や薬剤師に相談して、子どもの肌質や年齢に合った保湿剤を見つけておくのもよいでしょう。

今月のつくしんぼ利用状況 発熱 2名 嘔吐 1名

今月の感染症 アデノウイルス 3名